

第25回2021 J F F Wあおり（拓こう未来を！ つなごう想いを！ ～青森でつなぐ全国の絆～）が2021年（令和3年）11月20日、青森市にあるアピオあおもりで開催された。J F F W（Japan Fire Fighting Women's club）は全国の女性消防職員の自主的なネットワーク。全国各地から女性消防職員等約90名が会場に参加したほか、約20名がオンラインにより参加した。主催はJ F F Wあおり実行委員会とJ F F W事務局。司会は、弘前地区消防事務組合消防本部の三浦光氏が務めた。

今回の交流会は10時30分に青森地域広域事務組合消防本部の消防職員による「ねぶた囃子歓迎セレモニー」により開会し、開会セレモニーでは、三沢市消防本部の滝沢智雪氏による「開会のことば」、青森県知事の三村申吾氏、青森県消防長会会長の成田智氏による祝辞、エール交換、消防庁消防・救急課長の門前浩司氏による挨拶が行われた。その後、消防庁消防・救急課の永峯義典氏による講演「女性消防吏員活躍推進の取組について」、防衛装備庁調達事業部総括装備調達官の近藤奈津江氏による基調講演「可能性への挑戦～女性活躍と自分らしさの実現～」が行われた。

午後は、ライフワークバランス、現場活動、理想の上司、ハラスメントフリーについてをテーマとする分科会が行われ、活発な議論が行われたのち、一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと代表理事の小山内世喜子氏がコーディネーターを務める全体会「拓こう未来を！ つなごう想いを！ ～青森でつなぐ全国の絆～」で、発表・講評が行われた。その後は、弘前地区消防事務組合消防本部の前田陽子氏による「閉会のことば」により閉会となった。



受付の様様

今回の全国消防最前線では、J F F Wあおり実行委員会代表の滝沢智雪氏（三沢市消防本部予防課課長補佐兼設備指導係長）に、今回の交流会について、女性消防職員の現況、課題、消防職員のネットワーク等についてお聞きする。



滝沢 智雪
三沢市消防本部
予防課課長補佐兼設備指導係長

青森県内の女性消防職員14名からなるあおり実行委員会により開催

本誌 まず今回の交流会についてお聞かせください。滝沢智雪（三沢市消防本部予防課課長補佐兼設備指導係長） 第25回2021 J F F Wあおもりは、本部事務局としてのJ F F W事務局（石原房江代表）の皆さんの協力のもと、J F F Wあおり実行委員会により開催しました。

あおり実行委員会は、前田陽子さん（弘前地区消防事務組合消防本部）と私が代表を務め、3つの班に分かれ班長を置き、水尻沙希さん（十和田地域広域事務組合消防本部）が講演班の班長、中村美里さん（弘前地区消防事務組合消防本部）と三上真智子さん（八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部）がおもてなし班の班長、村上茜さん（下北地域広域行政事務組合消防本部）が分科会班の班長を務め、青森県内の女性消防職員に協力を呼びかけて各班を構成し、総勢14名のあおり実行委員により活動を進めました。また、一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと代表理事、小山内世喜子様には同実行委員会のオブザーバーとして協力を頂きました。この場を借りて、今回ご協力頂いた多くの方々に御礼を申し上げます。

あおり実行委員は青森県内8消防本部からの参加なので、青森県のほぼ真ん中に位置する青森市に集まって会議を行いました。2017（第21回）J F F W交流

全国消防最前線⑦

会 IN 京都の時の京都のメンバーのお話を参考にし、青森市内のカラオケボックスを借りたり、県の施設を借りたりして、会場、日時、テーマ等について話しあいました。

テーマ「拓こう未来を！ つなごう想いを！ ～青森でつなぐ全国の絆～」については、各班から1つずつ案を持ち寄り投票により選ぶ方針でしたが、どれも捨てがたく、3つのよいところを組み合わせたかたちになり、皆の熱い思いがにじみ出ているテーマとなりました。広報用のキャラクターを作成したのは、下北地域広域行政事務組合消防本部の濱中真菜美さん（下北地域広域行政事務組合消防本部）です。リンゴをかじる音を名前にしたリンゴの「おしゃく」と消防士の「おしゃき」です。

新型コロナウイルス感染拡大の観点から延期、そして奇跡の開催へ

本誌 今回の交流会開催は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一度延期した上での開催でした。その際の状況についてはいかがでしたか。

滝沢 2019年（令和元年）7月に2019第23回JFFW交流会（2020年1月号の本稿を参照）が横浜市で開催され、その時点では翌年の第24回交流会を青森で開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、青森での開催を延期し、第24回交流会は2020年10月にオンラインにより開催されることになりました。（2021年1月号カラーグラビア参照）。

すでに日時、会場、テーマを決定し、講師を決めて、分科会の構成等についても準備を進めており、こ



ねぶた囃子歓迎セレモニー



開会セレモニー

れまでの交流会で私たちが頂いたのと同様の、あるいはそれ以上のおもてなしの気持ちで皆さんをお迎えしようとしていたところでの延期決定でした。

講師の方にお詫びの連絡を入れたり、予約していた会場をキャンセルする等、実行委員のモチベーションを下げかねない状況にありながら、あおもり実行委員会の会議で「中止とする」という考えは出ませんでした。ちょうどあおもり実行委員の方が結婚したり、出産したりといったおめでたいことが続き、その盛り上がりの中で時機を待つことになりました。

本誌 延期した上でも、新型コロナウイルス感染拡大の状況での開催ということになり、さらに苦労されることになったのではないですか。

滝沢 延期が決まった中、2020年10月には、開催に向けてあおもり実行委員会が再始動し、開催日から検討し直しました。

これまでの多くのJFFW交流会が7月を恒例として開催されてきましたが、このところ7月頃に豪雨災害が発生していることからその対応で参加できなくなる方が出る可能性も踏まえ、また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催時期を外す意味から、11月20日を開催日時に決定しました。

会場についても、予定していた会場が2021年9月に閉館することになり、検討し直すことになりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の必要な状況にあり、直前になって状況がさらに悪くなりオンラインのみの開催となるとしても、青森で開催することを希望して計画を進めました。

実際には、新型コロナウイルス感染拡大はなかなか

収まらず、爆発的に感染者が増え、青森県内の行事が縮小や中止となっている状況にありました。あおり実行委員会のなかには、計画を進めながら、「なぜこんな時期に開催するのか」と言われ、肩身の狭い思いをした委員も多くいたと思います。新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、タイミングを計りながらコツコツと計画を進めました。

そのようなまさに奇跡ともいえる開催に対し、全国の消防職員等の皆さんには、遠方からにもかかわらず大勢の参加を頂きました。青森県内の消防本部の男性職員、青森県消防学校の講師、青森県職員の方々にもボランティアとしてご協力頂き、また、あおり実行委員の所属消防本部にもご協力頂きました。本当にありがとうございました。

青森ならではの！ ねぶた囃子歓迎セレモニー

本誌 今回の「おもてなし」の一つとして、交流会の冒頭では「ねぶた囃子歓迎セレモニー」が見事に演じられました。青森ならではの！まさに圧巻でした。

滝沢 おもてなし班の提案で、全国からの参加者の皆さんにねぶた囃子を披露しようということになりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の最中にあって、引き受けてくれる団体を見つけられずにいました。妥協してVTRによる披露にしようという話にもなりました。

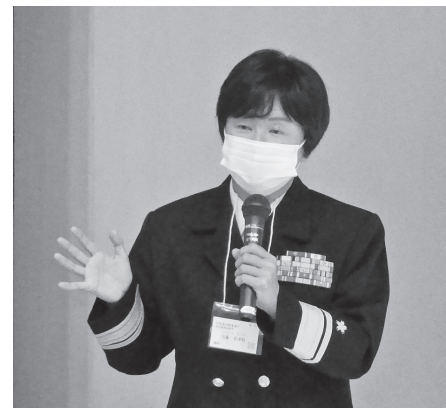
そこで知人の青森県消防学校の講師（青森地域広域事務組合消防本部から派遣）の中村裕志さんに「青森消防の職員に『ねぶた男』はいませんか」と相談した



講演「女性消防吏員活躍推進の取組について」



基調講演「可能性への挑戦～女性活躍と自分らしさの実現～」



防衛装備庁調達事業部総括装備調達官の近藤奈津江氏

ところ、青森地域広域事務組合消防本部から、人数、演出についてを問い合わせる連絡を頂きました。「お弁当しか出せない」とお伝えすると「自己完結での活動なので気にしないでください」という有り難い言葉を頂きました。

ねぶたお囃子隊・はねとの皆さん、総勢12名の方々が、この交流会のために作成くださったVTR「歓迎あおりJFFW」の演出のもと、迫力満点の演技を見せてくださいました。主催者の私まで感動感激の演技でした。

全国に多くの仲間を作り ネットワークで繋がる

本誌 次に、消防職員を志望した動機、消防職員としての歩みについて聞かせてください。

滝沢 私は多くの方々にお世話になったという思いがあり、社会に出たら自分が人の役にたてる仕事があったらいいと思います、消防職員を志望しました。

全国消防最前線⑺

採用されるとすぐに大型免許を取得し、警防隊員として消防ポンプ自動車に乗って災害現場に行き消火活動をしたと思っていましたが、当時の法律ではまだ女性が深夜業務に就くことができず、現場活動に従事することはできませんでした。

消防本部の予防課（8年）、警防課（5年）での日勤、通信指令課（7年）での隔日勤務、消防署（2年）での日勤を経て、現在はまた消防本部予防課（8年）で勤務しています。

2019年（令和元年）には、消防大学校幹部科第59期に入校させていただき、全国に多くの仲間を作ることができ、業務に必要な情報の交換や共有などを行い、ネットワークでつながっています。

交流会を楽しみにまた1年、仲間から、元気・勇気・やる気を…

本誌 J F F Wとのこれまでの関わり等について聞かせてください。

滝沢 私がJ F F W交流会に初めて参加したのは、2014年（平成26年）に横浜市で開催された交流会です。

私は青森県内で初めて採用された女性職員で、男性ばかりの職場の中、手探りで消防業務を行っていました。目の前の業務に全力で取り組むものの、悩むことが多くあり、相談する女性の先輩がいない状況にありました。プライベートでは、結婚、出産、育児等について悩むこともありました。

そんな中で、J F F W交流会が開催されていることを雑誌やインターネットで知り、全国で活躍されている女性消防職員の方の意見を聞いてみたいと思い、思



分科会の模様

あおり実行委員会

代表 滝沢 智雪（三沢市消防本部）
前田 陽子（弘前地区消防事務組合消防本部）

○講演班

班長 水尻 沙希（十和田地域広域消防事務組合消防本部）
三浦 光（弘前地区消防事務組合消防本部）
山下 このは（鯉ヶ沢地区消防事務組合消防本部）
金澤 柚葉（青森地域広域事務組合消防本部）

○おもてなし班

班長 中村 美里（弘前地区消防事務組合消防本部）
班長 三上 真智子（八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部）
濱中 真菜美（下北地域広域行政事務組合消防本部）
三和 裕佳子（五所川原地区消防事務組合消防本部）
工藤 和加（五所川原地区消防事務組合消防本部）

○分科会班

班長 村上 茜（下北地域広域行政事務組合消防本部）
佐藤 桂子（弘前地区消防事務組合消防本部）
熊谷 仁美（青森地域広域事務組合消防本部）

オブザーバー

小山内 世喜子（一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと
代表理事）

い切って小学生の子供を連れて、J F F W交流会に参加させて頂いたものでした。

その交流会では、青森県からの参加は私一人であったためか、事務局の皆さんに「一人でよく来たね」と声をかけて頂いたのを憶えています。受付を済ませたところで、参加者名簿が北方の青森県から始まっている参加者番号が1番であったことから「乾杯の挨拶をお願いします」と言われました。そのような役割まで与えて頂き、私は初めて参加していることからの緊張を解くことができました。

その時にお会いした秦好子さん（元横浜市消防局）、古尾谷敏江さん（元川崎市消防局）、石原房江さん（元市川市消防局）をはじめとする本部事務局の方々とは、現在も電話やライン等でつながり、交流を持たせて頂いています。

自分の所属に女性の先輩がいなくて悩んだり困ったりしている女性消防職員の方がいらっしゃったら、是非J F F W交流会のホームページ（<https://club-jffw.com/>）を覗いてみて頂きたいです。パワーがとにかくすごいです。一年に一度の交流会を楽しみにまた1年頑張れます。同じ消防職員の仲間から、元気・勇気・やる気をもらえます。

青森から全国へ ネットワークを広げ、共有する

本誌 青森県内の女性消防職員のネットワークについて聞かせてください。

滝沢 J F F W交流会に初めて参加したのち、私はそこで見たたり聞いたたり感じたりしたことを青森県内の女性消防職員に伝えたいと思いました。

そこで、その頃から年に一度の女性消防職員の女子会を開くことになりました。そのメンバーのうちの有志数人がその後の J F F W交流会に参加するようになり、今では10人をこえるメンバーが J F F W交流会に参加するようにもなりました。

青森県内の女性消防職員による SNS を使ったネットワークを広げて作ったグループラインは、消防大学校からの資料や各種研修会の情報など、全国の消防職員ともつながる共有の場となっています。

分科会で忌憚なく話しあい 全体会で発表し、共有する

本誌 今回の交流会の分科会、全体会についての感想をお願い致します。

滝沢 J F F W交流会に参加している女性消防職員は、ロールモデルの先輩がいなくて、それぞれに困っている状況にあると思います。そういう状況にある女性消防職員にとって、性別も年齢も階級も違う参加者が、消防隊員、救急隊員、救助隊員としての現場活動、通信指令や予防課等での業務の中で、悩んだり、



分科会の模様



分科会の模様

悔しい思いをしたりしたこと、業務推進のために工夫していること等について忌憚なく話しあえる分科会は、交流会の中で最も貴重で楽しい時間です。

全体会では、各分科会で話しあわれた内容の発表があり、参加者全体でその内容の共有ができます。

今回の交流会ではこの分科会に多くの時間を割り当てましたが、参加者の方からもっと時間が欲しかったという意見も頂いています。

やりたいことに向かって頑張って いつかはよい方向に向かう

本誌 女性消防職員の現況についてはどのように感じられますか。

滝沢 1969年（昭和44年）に女性消防職員の歴史が始まって以来、先輩方の計り知れない努力と苦勞によって女性消防職員の歴史は築かれてきました。

2004年（平成16年）の32号通知、56号通知は特に、私たち女性消防職員にとって、世界を変えるほどの意味を持つ通知でした。この通知を機会に全国では、徐々に火災や救急の現場に女性消防職員が出場し活動することになったと思います。

私は、2006年（平成18年）に通信指令課勤務になり、拝命以来初めての当直勤務になりました。青森県内の各消防本部でも女性消防職員が少しずつ採用されていきましたが、青森県内で女性の救急隊員が活動するようになるのは、2006年頃であったと思います。青森県内の女性消防職員が警防隊で活動するのはさらにその後のことです。

全国消防最前線⑦

現在、青森県内の女性消防職員数は51名、国の定める目標5パーセントに対し1.9パーセントという現況になっています。少しずつではありますが女性消防職員が増えてきています。

職域については、青森県消防学校で厳しい訓練を受け、人命救助最優先を叩き込まれてきた女性消防職員たちは、とても頑張っているのですが少々のことではへこたれることはないと思います。

女性消防職員は皆、自分がやりたい業務に就くために日々惜しみなく努力しています。現在、国が全面的にバックアップし女性の活躍を推進しているので、自分のやりたいことに向かって頑張っていれば、いつかきっとよい方向に向かうと思います。

個々のライフスタイルについて柔軟に対応していくよう努めたい

本誌 女性消防職員にとっての結婚、出産、育児等についてはどのように考えられますか。

滝沢 今回の交流会の分科会では、テーマ1「理想のライフスタイル!『ライフワークバランス』」で、「スキルアップもプライベートも! 頑張り屋さんの本音トーク ~仕事と家庭の両立~」をスローガンとして意見交換がなされました。結婚、出産、育児は、誰にとっても祝福すべき一大イベントだと思います。

仕事には代わりの人がたくさんいますが、親は自分しかいません。子供と向き合って育児休暇を取りたい方、消防が大好きで早く現場に戻りたい方等、男性女性にかかわらず、様々な考え方があり、ひとくくりにはできませんが、個々のライフスタイルについて、使



オンラインによる参加 (分科会)



全体会「拓こう未来を! つなごう想いを! ~青森でつなぐ全国の絆~」



全体会 (発表)

用できる制度を十分に理解し活用し、柔軟に対応していくよう努めたいところです。組織としては、人員のやりくり等の課題もありますが、いつでも職場に復帰できるよう、体制を整えることが大切だと思います。

私は当直勤務の日に、子供たちと交換日記をしました。それなりに工夫して育児、仕事を楽しんできました。職場に理解を頂いたこと、家族に協力してもらえたことに感謝しています。

消防士になって災害現場で住民のために活動したい

本誌 警防や救急の現場における女性消防職員の活動についてはどのように考えられますか。

滝沢 今回の交流会の分科会では、テーマ2「現場で輝く!『ポジティブアクション』」で、「警防・救急・救助に緊援隊! 悩み事・困り事、ここで解決できるかも~現場活動・災害派遣で女性が活躍するために

～」をスローガンとして意見が交わされました。事故事案の内容によって、男性職員と乗り換え運用されたり、消防署に残留にさせられたりするケースがあるということでした。

私は警防や救急活動においても、男性女性にかかわらず公平公正で同じ扱いでよいと思っています。消防士になって災害現場で住民のために活動したくて消防職員になったのです。とにかく何でもやらせてほしいと思います。たとえ汚くなくても、臭くなくても、人命救助の現場で活動したいと思っています。傷病者が女性である場合は、現場部隊に女性がいると安心できるという住民の声も聞きます。

ハラスメントを防ぐためには意識改革・啓発、教育の実施が必要

本誌 各種のハラスメントについてはいかがですか。
滝沢 ハラスメントについては、今回の交流会の分科会でもテーマ4「お互いを思いやり、心の充実を！『ハラスメントフリー』」で、「しない！させない！見逃さない！気づきの大切さ～ハラスメントを防ぐ・避ける、自分の心の守り方～」をスローガンとして話しあわれました。分科会の中では最も参加人数の多いテーマで、多くの方が関心を持っているテーマであると感じています。

ハラスメントはなくすべきであり、許されるものではありません。職場でのハラスメントを防ぐためには、十分な調査、処分の厳格化、相談できる窓口の設置、風通しのよい職場環境づくりが挙げられます。どれも大切ですが、職員の意識改革・啓発、教育の実施が必要だと思います。

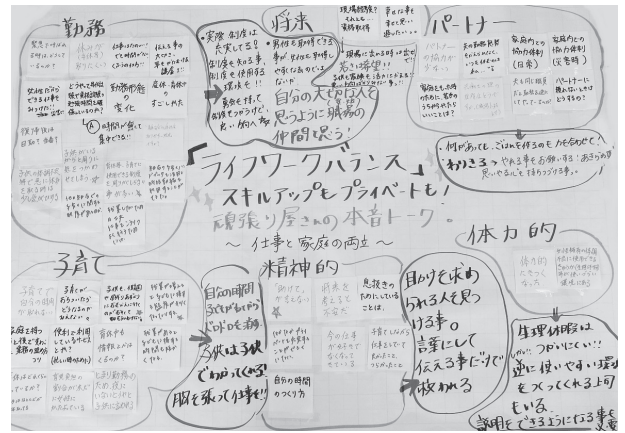
本誌 女性消防職員の活躍を推進していく中の消防組織の課題についてはいかがでしょう。

滝沢 特に幹部の方の意識改革が重要になってくると思います。誰もが働きやすい職場を作る、女性活躍推進の考え方を自ら理解する、「男性だから女性だから」で判断しない、性別にかかわらず公平・公正に接する、配慮の気持ちを持つ等、ハラスメント防止にも共通する意識の改革が重要であると思います。

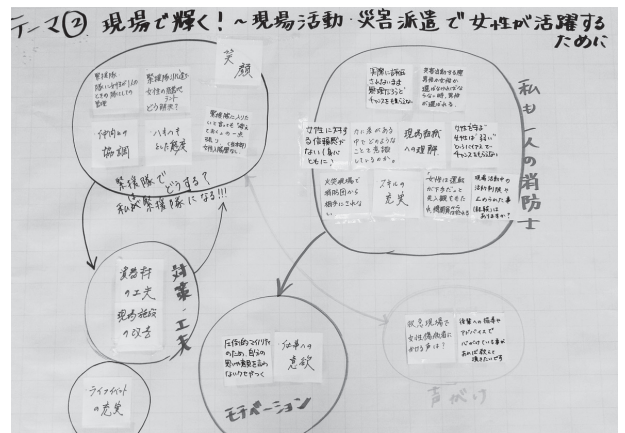
本誌 若い消防職員にはどのような印象を持たれますか。

分科会の成果（全体会で発表された）

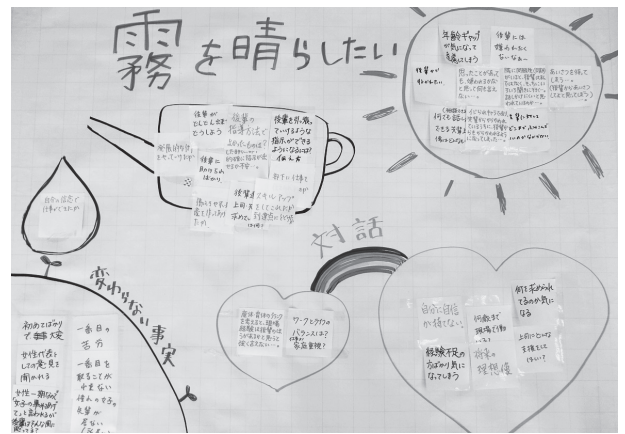
テーマ1



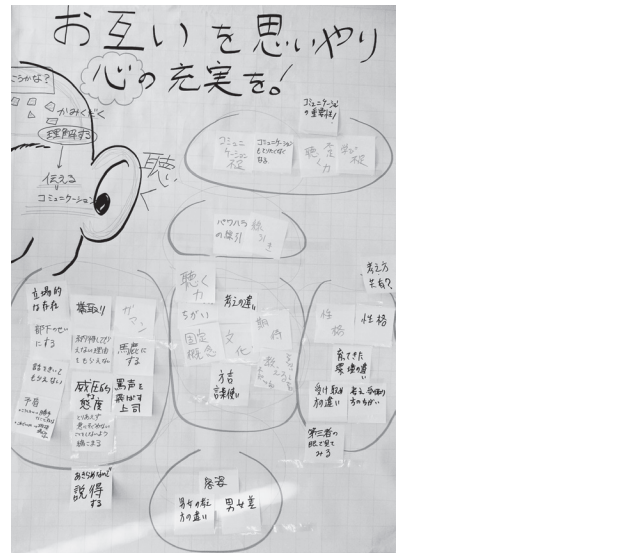
テーマ2



テーマ3



テーマ4



全国消防最前線⑦

滝沢 消防職員になりたくて採用試験を受け、難関を経て採用された方たちの、仕事に対する熱意は高いと思います。それぞれが、夢を持って自己啓発に取り組んでいるように思います。今では幼少期から男性女性の性別に関係なく教育を受けてきているので、皆がよきライバルであり、よき仲間なのだと思います。目標に向けて頑張ってもらいたいと思います。

本誌 今回の交流会の分科会では、テーマ3「理想の上司と思われたい!『マイボスマイヒーロー』」では、「後輩も私もブラッシュアップ~上手に後輩を育成するために~」をスローガンとして話しあわれました。ベテランの職員と若手の職員がともに高めあえる組織づくりが必要ですね。

最後に、後輩の女性消防職員へのメッセージをお願い致します。

全国に消防の仲間がいる 「しなやかに、したたかに、微笑みながら」

滝沢 現在、国では女性消防職員のさらなる活躍の推進に向けた取り組みが進められ、各消防本部で採用・増員がなされていると思います。女性消防職員の職域が拡大され、女性消防職員が多様な職域にも就くことができるようになってきている現在、消防職に就いた皆さんは、個人のスキルアップはもとより、信頼できる仲間を作って様々なことに可能性を見だし、挑戦してほしいと思います。

実際には、警防隊員、救助隊員、救急救命士になることを夢見ている希望にそぐわない状況があるかも知れません。あるいは実際に希望の職域に就いたものの理想と現実が違い目標を見失ってしまうといったことも考えられます。そんな時には、初心に戻って、住民の生命・身体・財産を守る消防士であることを第一義に考えてください。

私もいつかは、消防ポンプ自動車で火災や災害現場に行き活動したいと思っています。また、それと同時に、担当業務や役割は違っていても目的は一緒だと思っています。目標を持って、何にでも挑戦しながら自分の経験値を増やし、自分の居場所を作ることが大切だと思っています。

仕事に人生にプライドを持って胸を張り一生懸命努

拓こう未来を!つなごう想いを!
~青森でつなぐ全国の絆~

第25回2021 集まれ!
全国の女性消防吏員!!

JFFWあおり

日時 2021年11月20日(土)10:30~17:10
場所 アピオあおり 青森市中央三丁目17-1
(オンライン配信も合わせて実施)

男性消防吏員もぜひ参加ください!

託児所あります!
お子さんを預けられるよう託児所を
用意します。お子様連れでも安心!
敷子料・定員に達し次第締め切ります。

お問い合わせはこちら
JFFWあおり実行委員会 代表
滝沢幸雄(三沢市消防本部)
0176-54-4279
前田穂子(弘前消防本部)
0172-32-5109

「しなやかに、したたかに、ほほえみながら」
JFFWとは
Japan Fire Fighting Women's Club
全国の女性消防吏員が共に活動するための消防本部
の有志者、任意で結成された団体です。

基調講演
地域の安心・安全を担う隊士としての使命感
~女性消防の未来~
講師: 北海道消防長会総務課課長 渡辺 敬雄 氏

主催 JFFWあおり実行委員会・JFFW事務局
HP <https://club-jffw.com/> 申し込み、詳細は JFFW で検索!
後援 青森県・青森県消防長会

ホームページでの開催告知広報。広報用キャラクターは、リングの「おしゃく」と消防士の「おしゃぎ」
(下北地域広域行政事務組合消防本部・濱中真菜美)

力していると誰かが応援のエールを送ってくれます。

「しなやかに、したたかに、微笑みながら」はJFFWのスローガンです。困った時悩んだ時は、この言葉を思い出して、全国に同じ消防の仲間がいることを思い出してください。

いつも笑顔を忘れずに…。

